

# 温泉利用状況報告書（個表）の 記載上の注意事項

（報告者用）

## 1 総括

### (1) 個表の記載例について

次の記載例を参考に記載すること。

- ア 報告者が、「温泉採取者であって、自らが温泉利用者である」の場合・・・【記載例1】
- イ 報告者が、「温泉採取者であって、未利用である」場合・・・・・・・・・・【記載例2】
- ウ 報告者が、「温泉採取者であって、分湯のみを行っている」場合・・・・・・・・【記載例3】
- エ 報告者が、「分湯を受けている温泉利用者である」場合・・・・・・・・・・【記載例4】

### (2) 個表の各項目について

以下に各項目の記載方法等についての詳細を記しており、記載の際は十分注意すること。

## 2 記載にあたっての注意事項

### I 報告者情報

次年度以降の調査等に活用するため、郵送物の郵送先、担当者名、電話番号、メールアドレスを記載すること。

#### ①「郵便物送付希望先住所」

郵便物の受取が可能な住所を記載すること。

#### ②「宛名（担当者名）」

郵送時の宛名もしくはメール送付時の担当者名を記載すること。

#### ③「電話番号」

左詰めで電話番号を記載すること。

#### ④「メールアドレス」

メールでのやりとりが可能な者はメールアドレスを記載すること。

※メールアドレスを記入いただいた方に対しては次年度以降メールにより調査を行います。

### II ゆう出路（源泉）の状況

この区分の「場所（住所）」及び「泉質」は、温泉採取者、未利用のゆう出路の所有者及び温泉を利用する施設の管理者などの源泉を管理している者が次の事項に注意の上、記載すること。

#### ①「源泉名称」

「源泉名称」は、現在使用している名称がある場合に記載すること。

（記載例）〇〇号泉、〇〇の湯

#### ②「場所（住所）」

源泉の所在地を記載すること。

#### ③「泉質」

（記載例）ナトリウム－塩化物・硫酸塩泉

#### ④「泉質の分析年月日」

温泉法第19条に基づく登録分析機関が発行した分析書の分析終了年月日を記載すること。

#### ⑤「利用・未利用の別」

該当する項目にチェック（☑）を入れること。

⑥「ゆう出状況」

ア 該当する項目にチェック（☑）を入れること。該当項目が複数である場合はその全てにチェック（☑）を入れること。

イ ⑤において、「未利用」の場合の「自然ゆう出」や「掘削自噴」は、現に温泉を利用し得る状態にありながら、利用されていない場合のことであり、「動力揚水」とは、動力を稼働することにより揚水できるゆう出路である。

⑦「ゆう出量」・⑧「温度」・⑨「ゆう出量・温度の測定日」

ア 測定場所は、ゆう出口（測定孔）とし、本年3月に測定した結果を記載すること。

なお、ゆう出口での測定が困難な場合には、利用施設等において測定するものとし、「備考」にその理由及び測定場所を記載すること。

また、本年3月の測定結果がない場合は、それ以外の結果でもやむを得ないが、測定月日を必ず記載すること。

イ 動力が設置された未利用源泉（⑤：未利用、⑥：動力揚水）については、現在設置している動力で揚水可能な量を記載すること。

ウ ⑦において、地熱発電のための生産井として水蒸気・ガスとして温泉をゆう出させている場合は、「水蒸気・ガス」に☑を入れること。

エ 自噴井戸等においてゆう出量がわからない場合は「不明」に☑を入れること。

⑩「利用量」

現在の利用量を自己利用分と分湯分に分けて記載すること。また合計量を記載すること。

Ⅲ 「許可対象の温泉利用施設の状況」

この欄は、温泉を利用する施設の管理者等が、次の事項に注意の上、記載すること。

①「利用施設名称」

現在温泉が利用されている施設の名称を記載すること。

②「場所（住所）」

施設の所在地を記載すること。

③「許可数」

温泉法第15条に基づき、温泉利用許可件数を浴用と飲用に分けて記載すること。

④「利用許可施設の種類及び利用量」

ア 宿泊施設、公衆浴場、老人福祉施設、病院、リハビリテーション施設、プール、

レジャー施設等の該当する施設に☑を入れ、現在の利用量を記載すること。（複数回答可。）

イ 宿泊施設においては、宿泊収容定員、年度延べ温泉利用者数、うち延べ宿泊利用者数を記載すること。なお、年度延べ温泉利用者数は、日帰り利用を含む前年度の実績、うち延べ宿泊利用者数は、年度延べ温泉利用者数の内数として、宿泊者数を記載すること。

ウ 該当する施設がない場合は、その他欄に☑の上、詳細を記載すること。

エ 多段階利用により、浴用・飲用とその他の目的の両方に利用する場合は、重複した利用分を、「利用許可対象外施設」にカッコ書で記載すること。

※ 多段階利用の具体例

例1 熱交換後、浴用・飲用に利用している場合

2 浴用・飲用の利用後に、他の目的に利用している場合

オ 「利用許可対象施設」と「利用許可対象外施設」の合計が、ゆう出路（源泉）の状況の利用量と一致すること。なお、多段階利用の場合は、カッコ書された利用量は算入しない。

#### Ⅳ 「許可対象外の温泉利用施設の状況」

この欄は、温泉を利用している管理者等が、次の事項に注意の上、記載すること。

##### ① 「利用許可対象外施設の用途、箇所数及び利用量」

ア 工業用（製塩等）、温室栽培（トマト等）、水産養殖（テラピア等）、自家用（個人住宅、その他施設）、暖房、ロードヒーティング等の該当する用途に☑を入れ、現在の箇所数及び利用量を記載すること。

イ 複数の用途がある場合、利用量が多いなど主として利用している用途の番号を主たる用途の欄に記載すること。

ウ 該当する施設がない場合は、その他に☑の上、詳細を記載すること。

エ 「利用許可対象施設」と「利用許可対象外施設」の合計が、ゆう出路（源泉）の状況の利用量と一致すること。なお、多段階利用の場合は、カッコ書された利用量は算入しない。

#### Ⅴ 「備考」

利用する施設が、循環ろ過方式を用いている場合又は温泉を加熱している場合は、その旨を、また、未利用のゆう出路については、未利用になった直近（利用したことがない場合にあっては、利用計画当初）の利用目的を記載すること。

### 3 その他

温泉採取者が施設管理者を兼ねている場合であって、1つのゆう出路に対し、利用する施設が複数あるときは、「温泉利用施設の状況」区分に係る部分を別途作成し、記載すること。